



連載

FACE TO FACE

Dr. N. Furuyama

ドクター古山の ルックスアップ講座

メタバースの時代が到来すると、人々の美意識も変化する。すでに、グルーミングや歯列矯正と同じベクトルで、ユーザーが美容医療施設を利用する時代に突入している。時代の転換期を迎えたいま、日本の美容医療のリーダーである自由が丘クリニックはグローバル化にどう対応していくのか。前号でレポートした自由が丘アカデミー主催の台湾のドクターを迎えたセミナーを振り返りながら、ドクター古山にお話をうかがった。

グローバル化への対応編

前号でレポートした、台湾のドクターを対象としたセミナーは熱気あふれる充実した内容だった。自由が丘アカデミーは今後も海外への情報発信や技術交流を継続していく予定だ。その意義について、古山先生はこう語る。

「海外の専門医と交流する機会はこれからどんどん増えてくると思います。これまでは、アジアを代表する美容医療先進国・地域として日本と韓国、そして台湾が知られていました。そのグループに中国が加わることは確実にでしょうし、タイも大きなポテンシャルを秘めていると思います」。韓国は90年代までに工業製品の伸びに合わせて国際舞台で存在感を示してきたが、工業化の恩恵は早晩減速することが予測された。それに代わる輸出品として注目したのが、美容医療であり、音楽や映

画などのエンターテインメントのコンテンツだった。古山先生は、今後は韓国以外のアジアの国々でも、美容とエンタメの融合は盛んになってくるだろうと予測している。

「韓国は、いわば国策としてエンターテインメントやビューティー産業を後押ししました。国全体で経済的なゆとりができたなら、衣・食・住の次に心が向かうのは、よりきれいな化粧品、より若くありたい、より楽しい娯楽を体験したいという欲求です。韓国はそういう流れをいち早く読み、美容医療に対する精神的なハードルを低くし、同時に美しい顔立ちの俳優が登場する映画や、美男美女が歌うK-POPを上手にプロモーションしてきたのです。そうした活動を通じて、欧米でもコリアン・ビューティは広く

ビューティーを研究しはじめています。

認知されるようになりました。こうした前例を見習い、韓国に続くアジア発の美容進歩国を目指すのがタイではないかと思っています。経済が着実に発展していること、独自の美意識を持っていること、真面目な国民性、手先の器用さなどを鑑みると、タイの美容医療は確実に伸びてくると思いますね」

移動手段の進歩に伴って、地球を移動するために必要な時間は短縮し続けている。それが美容技術の伝達や、人的交流の質も変えている。「私が若い頃は、海外へ技術研修に行くというのは費用面でも時間面でも大変なことでした。県をまたいで、あるいは関東・中部・関西といったエリアごとに勉強会を行う程度にとどまっていた時代でした。しかし現在は、そんな昔のエリア交流と同じような感覚で、国際交流

ができるようになりました。とはいえ、言葉の障壁はまだある。日本人の多くはまだ、英語を流暢に話せないというコンプレックスを持っている。古山先生も20年ほど前までは海外に出ることが億劫だったという。それでも「自分が切り込み隊長にならねば」という強い使命感をもってミレニアム以降、海外へ飛び出した。その結果、古山イズムともいえる独自のメソッドや一流のテクニックに世界的美容業界が驚き、いまや海外のトップドクターから尊敬され、若いドクターたちからの憧れの的にもなっている。なぜ

古山登隆
(ふるやまのぶたか)
日本の美容医療をリードするバイオニクス的存在。メスを使わないノンサージェリー施術を得意とし、ボトックスやヒアルロン酸注入、糸によるたるみの治療など、世界トップクラスとして高く評価されており、注入指導医のヘッド・ファカルティとして国内外の美容医療の発展に貢献している



美容医療とアンチエイジング医学の最新情報の発信やアカデミックプログラムを提供する国際医学会「AMWC」。昨年モナコで開催された学会では、ドクター古山のポートレートがポスターで紹介された。その注目度の高さがうかがえる



突破できたのか。それは、つぎの言葉にヒントがある。「面倒で誰もやってこなかったことを率先して行うことが、自分の立ち位置を示すことにつながるのではないかと思います」

海外へ飛び出すことによって、古山先生には強力な国際人脈ができた。このため、先生が重視する「教育」は自由が丘アカデミーでの交流もおのずから国際化が進んでいる。「先月取材

世界的美容業界に向けて「盆栽エステティック」の先にあるジャパン。

ほど、「人間がやることはあまり変わらない」と感じるようになりまし。ですから、志を持ったドクターには自由が丘クリニックの技術を、出し惜しみせず供与していきたいですね。世界単位でレベルアップしていくことにつながればこれほど嬉しいことはありません」。

自由が丘クリニックが「Japan Beauty & Bonsai Aesthetics」というコンセプトで表現しているのは、日本独自の美意識だ。この美意識こそが、古山先生を世界のトップにまで押し上げたエレメントであり、「技術」は追いついたとしてもなかなか他の国のドクターが真似できないであろう「センス」である。たとえば、「明らかにケアをしました」というような、わかりやすい結果を求めるのが韓国流だとすれば、

日本の場合は、元の顔立ちを最大限に生かし、ちよつと見ただけではどの部分をケアしたのかわからない、しかし確かに若くなった・きれいなった、というような結果を求めるケースが多。そんな美に対する世界の関心がますます高まっている。古山先生は「盆栽同様、日本独自の美しい仏像にも美の法則が隠れている気がしてなりません。これからディテールを解析し、いずれは学会で成果を発表したいと思っています」。

自由が丘クリニックが提唱するJapan Beauty & Bonsai Aesthetics。取材で出していたオリジナルのミネラルウォーターのパッケージにも、そのコンセプトがデザインされていた

